加茂法話会　平成二十九年十一月二十四日　　見附市　智徳寺内　平澤俊隆

【演題】三帰礼文　坐ること

・感応道交して、菩提心をおこしてのち、仏祖の大道に帰依し、発菩提心の行李（あんり）を習学するなり。たとひいまだ真実の菩提心おこらずといふとも、さきに菩提心をおこせりし仏祖の法をならふべし。

【正法眼蔵（一）　身心学道　p128（岩波書店　水野弥穂子校注）】

・菩提心をおこすといふは、おのれいまだわたらざるさきに、一切衆生をわたさんと発願しいとなむなり。【正法眼蔵（四）　発菩提心　p177】

・仏道にさだめて（必ず）仏経あることをしり、広文深義（広大の文字、甚深の意義）を山海に参学して（文字としてではなく具体的な生きている事実として）、辨道（弁道）の標準とすべきなり。　【正法眼蔵（三）　仏経　p93】

・利行は一法なり、あまねく自他を利するなり。（p424）　【正法眼蔵（四）

・怨親ひとしく利すべし、自他おなじく利するなり。（p425）　菩提薩埵四摂法】

・仏祖あはれみのあまり、広大の慈門をひらきおけり、これ一切衆生を証入せしめんがためなり（p38）

・仏法はまさに自他の見をやめて学するなり。（p41）　【正法眼蔵（一）　辨道話】